令和7年度冬号

独立行政法人 地域医療機能推進機構 二本松病院

あゆみ

\TAKE FREE/
ご自由に
お持ち帰り
下さい

P2 JCHO地域医療総合医学会報告　駅伝大会への参加

P3 かんご部トピックス（市民講座・特定行為について）

P4 六角名誉院長秋の叙勲受章！
病院職員のお仕事紹介（入退院センター）

P5 老健花かすみ

P6 交通安全キャンペーン　栄養イベント

JCHO地域医療総合医学会報告

学会では、「魅力ある病院食提供への取組み」と題して発表を行いました。当院の「美味しい」と評判の病院食を職員に試してもらうことで、その価値を改めて認識してもらい、患者サービスの質的向上に繋げるのが目的です。

発表をまとめるにあたり、職員から当院の食事に対し高い評価を得られ、今後の業務への大きな励みとなりました。また、温かい激励や応援の言葉も数多くいただき、非常に心強く感じました。今後も、当院の食事の美味しさを強みとし、栄養管理室一丸となり、質の高い食事提供に邁進していきたいと思います。

主任栄養士　佐久間　美穂

筆頭演者の体調不良により、急きょ代わってポスター発表を担当しました。研究内容について多くの気づきを得られ、貴重な経験となりました。

この経験を今後の臨床に活かすと共に、後輩たちにも前向きに学会へ挑戦してほしいと感じました。

作業療法士　大内　秀和

高齢者の転倒予防対策として、身近な道具を用いたバランス訓練の研究を行いました。データ収集や解析、発表資料の作成に苦労しましたが、リハビリの先輩方をはじめ、様々なスタッフの方に支えられました。

今回の経験を活かし、今後もより良いリハビリの提供を行っていきたいと思います。

理学療法士　松川　雅治

看護師11年目にして、学会発表という大舞台を無事に終えることができました。発表テーマは「患者の安楽・安眠を目指したオムツ交換の見直し」です。

夜間のオムツ交換実施においての、患者の安眠妨害と看護師の負担という課題に対し、交換回数を1日2回へ集約した結果、患者の安眠確保と業務軽減というWin-Winの成果を得ることができました。会場からは「回数が変われば負担も全く違う。」と共感の声をいただきました。

この経験を糧に、今後も患者さんとスタッフ双方にとってよりよいケアを探求し、質向上に努めてまいります。

看護師　中田　史子

私は福島県内にて行った腎機能の見方を広めるための取り組みについて発表をしました。医療従事者ならば腎機能は見ればわかると思われがちですが、実際はそうとも限りません。共に学び合う事が地域の医療の質を高めることに繋がります。また、こういった発表で各地に赴く経験や、横の繋がりから自身の成長に繋がり、自分の「居場所」が出来ます。

学会発表は決して試験ではありません。例えやり方がわからなくても、アドバイスをいただけます。試行錯誤を繰り返し、より良い医療に貢献したいと考えております。

副薬剤部長　安部　真一

駅伝大会に参加しました!

昨年11月30日に開催された第14回二本松市一周駅伝競走大会に二本松病院チームとして参加しました。

当日は晴天に恵まれ、絶好の駅伝日和となり、24.9kmを8人の選手で走り抜きました。どの区間も登り坂が多い厳しいコースではありましたが、同僚や地域の方々が沿道で応援してくださり、辛い場面で本当に力になりました。

今年は午年ということもあり、草原を走る駿馬のように颯爽と走り抜け、前年を上回る順位を目指したいと思います。

臨床検査技師　児玉　諒

かんご部トピックス

市民講座を開催しました

かゆみとおさらば!冬の保湿対策!

皮膚・排泄ケア認定看護師として、初めての市民講座を開催いたしました。テーマは「かゆみとおさらば!冬の保湿対策!」です。15名ほどの市民の方や職員が参加してくださり、冬に肌がかゆくなる仕組みや、効果的な保湿剤の選び方、塗り方のコツをお話ししました。質疑応答では「手の届かない背中はどうすればいい?」という切実な質問もありました。「スプレータイプの活用や、無理に伸ばさなくても良い。」とコツをお伝えすると、皆さん深く頷いてくださいました。保湿に「正解」はありません。自分の肌の感覚を信じて心地よいものを見つけるのが一番です。

皆さんが熱心に耳を傾けてくださったことが何より嬉しく、これからも肌の悩みに寄り添う活動を続けていきたいと改めて感じました。

皮膚・排泄ケア認定看護師　中田 史子

食事姿勢を見直して誤嚥を予防しよう

今回の市民講座は、「食事姿勢を見直して誤嚥を予防しよう」というテーマで行いました。正しい食事姿勢や椅子・床に座って食事をする時のポイントなど、自分の食事姿勢を見直し、普段から姿勢を意識する生活を心がけようという内容で話をさせていただきました。

高齢者にとって、「口からごはんを食べ続けられるか?」が、人生を左右する大きなカギです。まだまだ先の話と感じる方もいると思いますが、高齢の親世代の意思決定支援などにも大切な要素となるため、先を見据えて考えることが大切だと思います。

今後も、市民講座を通じて情報発信をしていきたいと思いますので、興味のある方のご参加をお待ちしております!

摂食・嚥下障害看護認定看護師　武藤 麻里子

特定行為研修修了看護師のご紹介

私は訪問看護ステーションに所属し、特定行為(医師の手順書をもとに実施する特定の医療行為)を実施しています。通常は医師が行う褥瘡部(床ずれ)の壊死組織の除去や気管カニューレ交換を看護師が在宅で行っています。在宅で特定行為を行うことで、治療をタイムリーに実施でき、悪化予防ができるため、処置の度に病院を受診する必要がなく、利用者さんや家族の心理的、経済的負担の軽減に貢献しています。

訪問看護師は地域の利用者さんの暮らしに寄り添い、生活の中で医療・看護ケアの提供を行っています。さらに訪問看護師による特定行為では小さな変化をタイムリーにとらえ、異常の早期発見に繋げることができるよう努めています。実際に、特定行為を行った利用者さんのご家族より、「なかなか病院へ連れていけないので、自宅で看てもらえてとてもありがたいです。」「変わったことがあればすぐに相談できるので安心です。」とのご意見をいただいています。

私たちは訪問看護師としてのみならず、特定行為研修修了看護師として、地域の皆さまが住み慣れた場所で「その人らしく」生活ができるように、これからも生活の場に出向き、様々な場で特定行為を活かした医療・看護をタイムリーに提供していきます。在宅医療の推進と地域貢献に努めていきます。

副看護師長　石川　淑子

六角名誉院長が瑞宝双光章を受章されました！

六角名誉院長は平成３年にJCHOの前身である社会保険二本松病院に外科部長として着任され、平成24年7月に副院長に就任されました。平成26年にはJCHOへの組織改変とともに院長に昇任されました。その後、10年間にわたり黒字経営を続けるとともに病院、老健施設での患者さん、利用者の方の診療に大きく貢献し、令和６年３月に定年退職となりました。

現在は非常勤医師として地域医療に大きく貢献されています。職員一同心よりお祝い申し上げます。

～六角名誉院長より～

このたび令和7年秋に瑞宝双光章を受章する栄に浴し、皇居で天皇陛下に拝謁してまいりました。大変名誉なことでありますが、これもひとえに、日々病と向き合いながら私を信頼し、支えてくださった患者さんとそのご家族お一人お一人のお力、そして医療の現場で常に高い志と責任感をもって尽力してくれた職員の皆様のおかげです。院長として皆様と共に歩んだ診療と病院運営の10年間は、私にとって何よりの財産であり誇りです。この受章を励みとして、医療の尊さと感謝の心を忘れず、今後も地域医療の発展を心から願っていきます。

名誉院長　六角　裕一

病院職員のお仕事紹介　【入退院センター】

入退院センターの仕事内容

副看護師長　永傳　雅美

入退院センターは、地域周辺の居宅介護支援事業所や地域包括支援センター、市役所、介護施設、診療所、病院、基幹病院や専門病院との連携を強化し、患者様が安心して医療や介護を受けられるように支援・調整することを目的としています。

主な業務内容

・受診や入院までの調整
地域医療機関からの外来受診予約、他院外来受診予約、転院依頼、転院受け入れ調整
・入院から退院後の生活の調整
退院支援、退院調整、他施設との連携調整
・医療相談
医療費や福祉制度、自宅での生活や施設など多岐に渡る相談をうけ、安心して治療や生活が送れるようにサポートすること

質問コーナー

Q1.仕事で気をつけていることは？

患者様とご家族が安心した生活が継続できるように、誠心誠意対応し、また、個人情報を多く扱う部署のため、常に個人情報の保護に努めています。

Q2.今後の目標は？

地域との連携をさらに強化し、相談しやすい入退院センターとなれるようスタッフ一同、取り組んでまいります！

次回の部署紹介は放射線科です！

二本松病院附属介護老人保健施設だより

花かすみ

クリスマス会を開催しました

今回のクリスマス会では、二本松警察署のヤングボランティア「リリーバーズ」の皆様にお越しいただき、ハンドベルの演奏を披露していただきました。ハンドベルの優しい音色を聞いて、笑顔になる方や演奏に合わせて歌を口ずさむ方もいらっしゃいました。

終了後も「いい演奏だった。」「またこういうイベントがあるといいな。」などの声も聞かれ、とても良い時間を過ごすことが出来ました。

交通安全キャンペーン

二本松警察署による交通安全呼びかけ運動が行われ、当日は1日署長の二本松市出身の歌手の秀香さんをお迎えしました。

患者さんや職員に反射材のストラップが配布され、夜間の外出には気をつけるようにと声掛けがありました。安全には十分気を配りたいですね。皆さんもお気をつけください。

総務企画課　乗石　愛子

栄養イベント

～栄養の力でつながるプロジェクト　第2弾～　として「毎日の食事×乳酸菌飲料の有効性」について栄養イベントを開催いたしました。通称栄養つなプロは、「栄養の力で人々を健康に、幸せにするために」を基本理念として活動しています。

イベントでは外来患者様や健康診断を受けに来られた方など、多くの方々にご参加いただきました。食生活の乱れは生活習慣病の原因の一つになっています。このイベントを通してご自身の食事を振り返るきっかけや、食生活を見直す機会になっていただけたのではないでしょうか。食事のお悩みがありましたら、栄養士までぜひお気軽にご相談ください。

管理栄養士　丹内　恵子

実習生を受け入れました

11/10～11/21までの2週間、郡山女子大学 家政学部 食物栄養学科3年生の臨地実習生2名を受け入れました。実習では、給食業務をはじめ、栄養指導および特定保健指導の見学、多職種カンファレンスや委員会活動への参加、嗜好調査の対応、災害時を想定した配膳訓練など、管理栄養士が担う幅広い役割を学びました。最終日、「将来は病院栄養士になりたい。大学の講義以上に、実務はさらに奥が深かった。」との感想が聞かれ、将来に繋がる経験ができたことを嬉しく思いました。

受け入れにあたり、ご協力をいただいた皆さまに、この場を借りて感謝申し上げます。今後も人材育成を通じ、地域医療への貢献に努めてまいります。

栄養管理室長　渡部　淳子

退職者のおしらせ

11月30日に吉野先生が退職されました。吉野先生には福田先生の代わりに、2ヶ月間勤務していただきました。短い期間ではありましたが、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。吉野先生の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

〈編集後記〉

あゆみ冬号をご覧いただきありがとうございました。年末年始は地元の関東で過ごしましたが、福島に戻ると東北に来たことを実感するほど寒いです。
今年は雪の降る日は例年より少ないですが、寒さは例年通りに感じますので、体調管理にお気を付け下さい。

JCHO二本松病院 福島県二本松市成田町1-553
TEL.0243-23-1231 FAX.0243-23-5086
HP http://nihonmatsu.jcho.go.jp
発行者：あゆみ編集委員会